

# 卫陽會報



# 北海道新幹線まもなく開業

第218号



◇巻頭言◇

參加与渡利正義（昭和39年卒）

(昭和39年卒)

私が初めて夕陽会を強く意識したのは大学四年の時であった。その春、担任の教授に呼ばれた。言わされたことは教科の学生で組織している研究会を卒業生中心に再編し、組織を拡大、内容の充実を図らうというものであり、ついては学生の意思をまとめて欲しいというものであつた。翌年発足したその会は、意識する、しないは別として夕陽会の教科研究部会のようなものであり、現在も毎年、研究大会を開催し、研究集録を発刊している。

次は、就職して数年目に本音絵画の末席に加えられた時である。その経緯は知る由もないが大先輩の下で汗をかく

その次は、自身の結婚の時であつた。往時は身内に会員が多い一家が少なくなかつたが、私どももその類であつた。亡

父は昭和九年卒であつたが、妻もその姉妹も会員であり、岳父も二回生で本会の創立会員となつてゐる。二つ吉野文喜其三

副会長を務めていた。その結婚披露宴で

当時本会会長であつた加茂勝衛氏がそのメインテーブルで倒れ、急逝する事態となつて。二つに分かれて、会の運営

なつた。このよんなごとから、会の運営に貢献すべきとの気持ちがより強くなつた。更に、その後附属学校で勤務するこ

とになつた。当時は、会長等の幹部は別として、部長をはじめ本部の業務は附属

校の全教員で行っていたので、すぐに会報部員（現、情宣部）として会報の作成

発送等にあたつた。各支部との連絡、調整を行う中で、多くの知己ができ、後に

お世話になることが少なくなかった。  
その後、渡島の小規模校を経て行政機

関へ転出、延べ八支部のお世話になつた

ところで、冒頭に記した教授とは母校の名譽教授故加賀栄治先生のことであり、その時立ち上げた会の名称は「函館国語会報」である。先生は叙勲など数多く受章されたが、その一つとして「函館市文化賞」も受賞されている。先生はその会の創刊号に次のように記されている

――この山並みの列なりを、断つてはいけない

――この山なみのそれぞれに位置してい  
る火山の煙を、絶やすことがあつて  
はならないのだ

橋田会長を先頭に多くの会員の尽力に  
より育英の山なみが続くことになつたこ  
とは慶賀に耐えない。

——この山なみのそれぞれに位置してい  
る火山の煙を、絶やすことがあって  
はならないのだ。

会の発展のために若い会員の方々の活躍に期待をしてやまない。

ところで、冒頭に記した教授とは母校の名誉教授故加賀栄治先生のことであり、その時立ち上げた会の名称は「函館国語会」である。先生は叙勲など数多く受章されたが、その一つとして「函館市文化賞」も受賞されている。先生はその会の会報の創刊号に次のように記されている――この山並みの列なりを、断つてはいけない

二十八年間離れていた函館の学校で退職を迎えることとなつたが、その時に本会の八十周年記念事業（記念式典部）にかわらせていただき幸運に恵まれた。これから迎える百周年の記念事業をはじめ

開闢　人名蕃殖」の文字が掲げられる。総会の会場などには墨痕淋漓たる「土地の公宅に泊めていたことも。各地の会員の夕陽会に対する思いは私どものそれをはるかに超えており、道南を離れてみて初めて分かること多かつた。本部や附属を母船とすれば、今では死語となつた独航船に例えられた。それだけの期待に応えられたかどうかは今となつては、はなはだ心もとない。



○更生保護功労者法務大臣表彰  
地域の力に感謝

函館市 中 山 昭 一

(昭和36年卒)

この度、思いもよらず更生保護功労者として法務大臣表彰を受章するという身に余る光栄に浴しました。

保護司は、法務省所管で国の法律で全国五二五〇〇名と定められているボランティアで、現在、函館市には約二〇〇名、道南地区で約四〇〇名の保護司が活躍しております。長年更生保護に貢献してきた者は各種表彰が授与されました。大臣表彰は、二十年以上の在籍で顕著な実践者に与えられてきました。

私は、教職経験三十八年間の中で、地域住民を始め多くの人達に支えられてきました。その恩返しにと考へ、大森小学校を退職した後に保護司を拝命しました。

この度、昨年九月末に、保護司十六年間で満期退任をしましたが、この間に、非行少年など多数の保護対象者に更生活動を支援してきました。また、函館保護司会連合会副会長を歴任し、社会を明るくする運動など地域の安全、安心活動の中核的な役割を果たしてきました。

更生保護関係各位と一緒に社会のためによくす役割を担つてきたことに心から感謝をし、同じ仲間と喜びを共有してまいりました。

結びに、夕陽会の皆様からご丁寧なご祝辞を頂き恐縮いたしております。夕陽会の皆様のご多幸を祈念し、感謝とお詫び返つてみますと、生まれも育ちも日高管内であり、教職に就き歩み始めた

この度、平成二十七年度地方教育行政功績者表彰受賞という身に余る光栄に浴しました。取り立てこれといった資質や能力に秀でるものない私がと恐縮しております。受賞に際しましては、橋田会長様や先輩、後輩の皆様から心温まるお祝いの言葉をいただき大変ありがとうございます。

振り返りますと、昭和三十九年学芸大学函館分校を卒業後、落部中学校を振り出しに三十八年間の教職生活を終え、平成十四年に定年退職し、平成十六年十二月から七飯町教育委員会委員として教育行政に携わることになり、十一年が過ぎました。



○地方教育行政功績者表彰  
皆様に感謝して

七飯町 鈴木 清二

(昭和39年卒)

ました。

今日、学校が抱える学力やいじめ、不登校、体力、生徒指導上の問題に加えて

全町の教育に関する諸問題について、教育長をはじめ教育委員の皆さんとともに

を考えさせられました。

教育の課題は尽きることはありません。

夕陽出身の現職にある教職員の益々の奮闘と会員の皆様のさらなるご助力によつてすこやかでたくましい子ども達が育つよう支援をよろしくお願ひいたします。



○北海道教育功績者表彰  
全ては函館の地から



苦小牧市 反保秀規

(昭和55年卒) 苦小牧市立豊川小学校長

ることを意識してきました。

これらのこと、思い返せば大学時代、寺中先生が起ち上げてくれたバスバンドの一員として八幡神社のお祭りで演奏をさせてもらつたり、夏休みを利用して音楽科有志で、べき地の学校を訪問して函館の地が、私の教育の基点になつています。

今後も、地域にある学校として、地域の方々と共に、地域に育つ子どもたちに向かっていくことを続けていく覚悟であります。

結びに、温かなお心遣いに感謝し、皆様のご多幸と、母校が地域の大学として益々発展することを、心より祈念いたします。



○北海道教育功績者表彰  
多くの出会いと支えに感謝して

新ひだか町 久保田 達也

(昭和55年卒)

この度、平成二十七年度北海道教育功績者表彰の栄に浴することとなりました。私のような者にとりましては、身に余る光栄であります。日高教育局をはじめ各町教育委員会、校長会や多くの先輩、同僚、とりわけ夕陽会の皆様の御指導や御支援のたまものであり、心から感謝申し上げる次第です。

また、受賞に際しまして、橋田会長様をはじめ、同窓の先輩・後輩の皆様方から心温まるお祝いの言葉、励ましの言葉をいただき、改めて夕陽会の絆の強さを感じているところです。

結びに、夕陽会の今後益々の御発展と会員の皆様の御多幸を祈念し、感謝とお礼の御挨拶といたします。

**受賞（章）おめでとうございます**

\*人権擁護功労者 法務大臣表彰

繪面和子

井氏（昭39年卒）

函館市榎本町六の二〇

\*人権擁護功労者 法務大臣表彰

森下英治

井氏（昭39年卒）

七飯町大沼町二九七の九

\*人権擁護功労者 法務大臣表彰

岡部壽一

井氏（昭40年卒）

北斗市久根別四の四一の一〇

\*瑞宝双光章（高齢者叙勲12／1）

小林昭二

井氏（昭24年卒）

せたな町北檜山区北檜山三二七の一

\*瑞宝双光章（高齢者叙勲12／1）

津山（佐々木）功

井氏（昭23年卒）

札幌市北区拓北八の二の五の二二

\*瑞宝双光章（高齢者叙勲1／1）

小越昭朗

井氏（昭23年卒）

函館市本通一の二の一四

\*瑞宝双光章（高齢者叙勲2／1）

松浦（越中）直文

井氏（昭23年卒）

函館市東川町二五の六

ご就任おめでとうございます

\*白老町副町長就任（H27／12／3）

古俣博之

井氏（昭51年卒）

\*岩見沢市教育委員会教育委員就任（H27／11／21）

杉野幹夫

井氏（昭53年卒）

## 第10回 夕陽美術展のご案内

日 時 平成28年9月16日(金)～20日(火)

会 場 函館市芸術ホールギャラリー

## 平成28年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 平成28年6月25日（土）

◆会 場 函館国際ホテル

（函館市大手町5番10号 ☎0138-23-5151）

- ・平成28年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- ・平成28年度 総 会 16時～17時
- ・平成28年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

## 夕陽会報



- 12/11 2/11 第2回渡島支部支会長・幹事長会議、勇退者激励感謝の会に橋田会長が出席する。（函館）
- 12/12 2/12 檜山支部総会・先輩を送る会に長が出席する。（江差）
- 12/13 2/13 副幹事長が出席する。（新ひだか町）
- 12/14 2/14 五分校会長・学長懇談会に橋田会長が出席する。（札幌）
- 12/15 2/15 道教教育功績者表彰お祝いの会に橋田会長、永井幹事長が出席する。（札幌）
- 12/16 2/16 五分校会長と道教委柴田教育長との懇談会に橋田会長が出席する。（札幌）
- 12/17 2/17 五分校会長と道教委柴田教育長との懇談会に橋田会長が出席する。（函館）
- 12/18 2/18 橋田会長、永井幹事長が出席する。（札幌）
- 12/19 2/19 函館市支部受章祝賀会に橋田会長が出席する。（函館）
- 12/20 2/20 檜山支部総会・先輩を送る会に橋田会長が出席する。（江差）

## 夕陽会ホームページを ご利用ください。

夕陽会ホームページより「本部夕陽会報」「函館支部会報」「渡島支部会報」のバックナンバーが閲覧、ダウンロード、プリントアウトできます。ご利用ください。



函館市支部では、地域に根を下ろした活動を掲げ、地域貢献事業を続けている。平成二十二年、函館奉行所開設時に車椅子を寄贈したのを皮切りに、同じく函館奉行所にフロアライト、タブレットを寄贈してきた。また、平成二十五年度から二年間は白尻地区にある縄文文化センターへ、実物投影機・ライフジャケットの寄贈を行つてきた。そして、今年度は、平成二十九年度にオーブン予定である函館市コミュニティプラザへキッズ用具一式を寄贈した。函館市コミュニティプラザは「函館のまちを舞台に未来を創る人たちを育む場」を基本コンセプトに、本町地区に整備される新しい施設である。次代の函館を担う若者の豊かな発想、企画を具現化し、未来のまちづくりへの拠点となることを基本理念にかかげ、多くの市民、特に若者が気軽に立ち寄り、広く交流できる施設となることをねらつてある。種々のプログラムを企画し、実行できることができる可変性の高い場を提供し、若手起業家の活動支援や、若者が気軽に集う場所を創出する。可動式空間仕切り、演出照明器具、音響機器、映像機器、防音性能などを備え、音楽、演劇、パフォーマンス等のイベント公演や、講演会、展示発表会などの多様なニーズに応えることができる多目的ホールや、誰もが気軽に立ち寄ることのできるフリースペースが備えられる予定である。今、函館は新时代を迎えている。北海道新幹線開業による経済・文化的交流と未来を見据えた新しいまちづくり。その一環として、今年度は函館市立小・中学校再編計画第一期事業として、五稜郭中の開校する。



函館市支部では、地域に根を下ろした活動を掲げ、地域貢献事業を続けている。平成二十二年、函館奉行所開設時に車椅子を寄贈したのを皮切りに、同じく函館奉行所にフロアライト、タブレットを寄贈してきた。また、平成二十五年度から二年間は白尻地区にある縄文文化センターへ、実物投影機・ライフジャケットの寄贈を行つてきた。そして、今年度は、平成二十九年度にオーブン予定である函館市コミュニティプラザへキッズ用具一式を寄贈した。函館市コミュニティプラザは「函館のまちを舞台に未来を創る人たちを育む場」を基本コンセプトに、本町地区に整備される新しい施設である。次代の函館を担う若者の豊かな発想、企画を具現化し、未来のまちづくりへの拠点となることを基本理念にかかげ、多くの市民、特に若者が気軽に立ち寄り、広く交流できる施設となることをねらつてある。種々のプログラムを企画し、実行できることができる可変性の高い場を提供し、若手起業家の活動支援や、若者が気軽に集う場所を創出する。可動式空間仕切り、演出照明器具、音響機器、映像機器、防音性能などを備え、音楽、演劇、パフォーマンス等のイベント公演や、講演会、展示発表会などの多様なニーズに応えることができる多目的ホールや、誰もが気軽に立ち寄ることのできるフリースペースが備えられる予定である。今、函館は新时代を迎えている。北海道新幹線開業による経済・文化的交流と未来を見据えた新しいまちづくり。その一環として、今年度は函館市立小・中学校再編計画第一期事業として、五稜郭中の開校する。

## 地域貢献を続ける夕陽会

函館コミニティープラザへキッズ用具一式を寄贈、地域と共に歩む函館市支部、

夕陽会函館市支部長 風間 和夫  
(昭和57年卒)



## 平成27年度 夕陽会研修助成先一覧

(H28. 2. 18現在)

- 1 第54回北海道中学校理科教育研究会函館大会
- 2 夕陽会小樽支部夏季研修会
- 3 平成27年度北海道教育大学夕陽会R-35の会（札幌支部）
- 4 夕陽会空知支部教育講演会
- 5 第67回北海道地区技術・家庭科教育研究大会
- 6 第62回北海道作文教育研究北斗・函館大会
- 7 胆振夕陽会学校経営セミナー
- 8 第62回北海道小学校理科教育研究大会函館大会
- 9 平成27年度北海道教育大学夕陽会札幌支部第2回会員研修会
- 102 北海道教育大学夕陽会特別支援学校支部講演会
- 112 平成27年度夕陽会岩手支部総会北上集会
- 12 夕陽会小樽支部冬季研修会
- 13 夕陽会小樽支部 勉強会・交流会（若手幹研究助成）
- 14 夕陽会上川支部運営研修会
- 15 夕陽会上川支部名寄地区会員交流会&研修会
- 16 夕陽会上川支部 勉強会・交流会（若手幹研究助成）
- 17 夕陽会帶広十勝支部 新得町立新得小学校公開研究会

(研修部長 光成中学校 鳴海 康司)

## 懐かしいお写真・珍しいお写真をお送りください!

情宣部では百周年記念企画として「一枚の写真から」を掲載中です。学生時代の部活動や各種記念行事、各支部のかつての懇親会や活動の記録写真等をコメントとともにお寄せください。お写真はデータを読み取った後、お返しいたします。ご協力をよろしくお願ひいたします。



夕陽100年の足跡

## 特集「1枚の写真」から(2)

昭和16年　函師開校30周年の頃　(資料提供・乳井邦衛氏－函師昭和19年卒)



南寮（第一寄宿舎）大食堂での開校記念祝賀会

正面にステージを設置し、横断幕を掲げ、生徒90名ほどが自由に大集合。右手奥には神棚も見える。中央に舎監山本虎之子先生、亀谷栄先生の姿あり。

出演は函師第六回卒業生千葉躬治氏  
コメントには  
「芸術の妙味に恍惚としている  
観覧の生徒。祝賀会、音楽会、  
絵画展等が催され盛大な会で  
あった」とある。



記念舞踏会（会場・松風町・巴座）

## 夕陽100年の足跡

## 特集「1枚の写真」から(3)

昭和12・13年度函師籠球部中等学校大会  
2年連続全道優勝・全国準優勝

(資料提供・故 黒丸宗太郎氏—函師昭和14年卒)

第14回全日本中等学校  
籠球選手権大会(開会式)<昭和12年9月23~26日  
東京都一つ橋體育館>先輩籠球協会チーム  
と共に

&lt;函館新川小體育館&gt;



中列右2人目 高杉留七氏(第6代会長)

黒丸宗太郎氏(昭14卒)  
の見事なシュート左2人目(No.3)  
黒丸宗太郎氏  
<函師屋外コート>

## 黒丸アルバム「籠球函師」

「戦前、昭和12・13年 全国大会2年連続準優勝時代」のエース黒丸宗太郎氏とその時代の球友の姿が残っていた。

ご遺族より、バスケット部OB会「海峡クラブ」に寄贈された。夕陽記念館に永久保存していくこととした。

<海峡クラブ顧問 川島孝夫氏(第9代会長・昭31卒) 談>

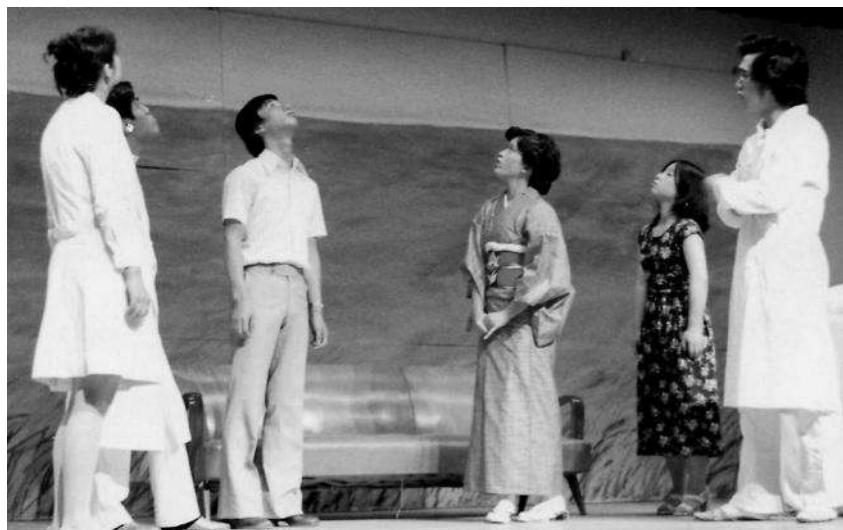
## 夕陽100年の足跡

## 特集「1枚の写真」から(4)

## 昭和52年演劇部創設の頃 (資料提供・文 古川邦彦/現情宣部長・昭和56年卒・元演劇部員)

母校に演劇部や演劇集団が、創設されたのは、百年の間に、私の知っている限りで、六度ある。残念ながら、それぞれの演劇集団に繋がりはなく、演劇という文化の特性として、その時々の時代性を反映させながら、劇的表現に強い憧れをもった学生達が集い、盛衰を繰り返していったのが実情である。

私たちが旗揚げした演劇部は、当時の顧問、安東璋二氏（現函館校名誉教授）によれば、母校にとって二度目か三度目の演劇部であったらしい。国語科の学生（特に寮生）が中心となって、昭和52年の夏、阿部公房の「緑色のストッキング」を旗揚げ公演してその活動を開始した。私が籍を置いたのは、昭和56年の卒業までであったが、その間に市民会館や仮講堂、講義室を舞台にして、7、8公演は、行った。安部公房や唐十郎、カミュ、佐藤 真らのアンダーグラウンドな前衛的、かつ不条理をテーマにした難解な芝居が多かった。私の卒業後も、十年程は活動をしていたが、その後は廃部となり、その後、現在に至るまで、3つの演劇集団が、活動したと聞いている。



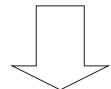
安部公房作「緑色のストッキング」  
(昭和52年7月／市民会館小ホール)

舞台右より小笠原尚文氏（55年卒）、船山朋子氏（55年卒）、岸中基子氏（55年卒）古家 真氏（53年卒）らの姿が見える。写真にはないが、舞台上方の梁に登って潜んでいるのが切明学氏（53年卒）で、主役であった。



唐 十郎作「24時59分発塔の下行  
きは竹早町の駄菓子屋の前で  
待っている」

(第2回公演 昭和53年2月  
／母校 仮講堂)



右より小笠原尚文氏（55年卒）、源  
圭子氏（54年卒）、田部井裕司氏（56  
年卒）、倉谷美穂子氏（56年卒）





# 支部の歴史を振りかえって

特別支援学校支部の歴史に想う

別支援学校支部長 矢野光男  
(昭和56年卒 北海道小平高等養護学校長)

夕陽会の皆様には 田ごろから本支部へのご理解とご協力をいただき感謝申しあげます。

本校は、小平町の町民や行政、企業の方などの連帯した誘致運動の取組の結果、ここ小平町鬼鹿地区（おんねの丘）に、平成八年四月一日に職業学科を置く高等部だけの高等養護学校として開校し、今年度で二十年目を迎えました。生徒たち

に皆、各自の立場に応じて、石狩、宗谷、石狩、胆振など広範囲の地域から入学しており、八十四名全員が寄宿舎に入舎しています。「笑顔、助け合い、学び合い」を校訓として、保護者をはじめ関係機関との連携・協力を図りつつ、全職員が一丸となり「誠意と本気、情熱と使命」をモットーに、生徒一人一人の卒

業後の自立や社会参加を見据え、地域に開かれた学校の創造と、本校の強みを生かした特色ある教育活動を行っています

伸び伸びと、おんねの丘にある高等養護学校で高校生活を送っています。

さて、この度、本部から原稿の依頼をいただき光栄に思います。昨年、特別支援学校支部長を仰せつかりましたが、なにぶん、手元に歴史をひもとく諸資料もなく、加齢に伴い記憶も途切れる始末で困りました。急ぎよ、附属特別支援学校から資料を収集しました。

平成十二年の初代支部長であつた北海道南幌養護学校長 手代木莊司先生は、現在稚内市に在住しています。縁とは不思議なもので、手代木先生には前任校である北海道稚内養護学校で学校評議員をしていただきました。学校経営に利する大局的で前向きなご意見を多くいただき、学校経営の精神的な支柱になつたのは言うまでもありません。

これまで本支部では年一回、研修会、総会、懇親会を合わせた形で、北海道特

夕陽会特別支援学校支部の歴史と伝統は先輩から後輩へ脈々と引き継がれていますが、この言葉の重みを真摯に受けとめつつ、夕陽会の誇りと魂を胸に抱き、障がいのある子どもたち一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じて適切な指導と必要な支援を行つて参ります。

本年は、特別支援教育の制度がスタートして十年目を迎えることになります。この教育理念の浸透とともに、基本的な体制等も整備され、障がいのある子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の進展や適切な指導及び支援の改善・充実が図られてきています。平成二十三年には障害者基本法が改正され、全ての国民が共生社会の形成を目指すことの國が明らかになり、障害者の差別禁止や社会参加を促す「障害者の権利に関する条

夕陽会の大先輩から贈られた「凡事徹底」という言葉を思い起こしました。当たり前のことを徹底的・継続的に行うという意味です。当たり前のことを行なうと、やがて何事も上手くいく。大先輩の「大先輩は先輩から後輩へ脈々と引き継がれていくに思います。夕陽会特別支援学校支部の歴史と伝統は先輩から後輩へ脈々と引き継がれています。」

このように障かいのある方々に対する国の施策や法律が矢継ぎ早に発出されるなど、変動の波は学校現場に打ち寄せ静まる事はありません。本支部においても、新たな時流を真摯に受けとめつつ、「チーム学校」の考え方の下、教職員自らのキャリアステージに応じた資質能力を高めていく力や、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力を高めていかなければなりません。

今後も、本支部の歴史を支えてきました諸先輩の熱い思いを受け継ぎ、夕陽会特別支援学校部の新たな歴史を刻み続けることを決意し、本拙稿の締めくくりとさせていただきます。

平成二十五年六月二十六日には、すべての国民が障がいの有無によつて分け隔てられることがなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につなげることを目的に、「障害者差別解消法」が公布され、平成二十八年四月一日から施行されます。

それは、「誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会である」と定義され、インクルーシブ教育システム構築の方向性が示されました。特別支援教育の一層の充実、発展を図り、障がいのある人と障がいのない人が、共に地域社会で生活し、働くという共生社会の実現に向けた取組が強く求められています。

別支援学校長会冬季研究協議会（正月明け札幌市で開催）の前日に行っています。また、道央地区中心のOB会員の皆様や管理職の参加に偏ること、道内全域で活躍している夕陽会員が集まるのは難しかったことから、今年度はイノベーションすべく日程調整を図り、十二月十二日に開催しました。遠路はるばる渡島、日高、オホーツク、釧路、上川管内から積み重ねて改めて三日間の企画運営をして、誰もが目立ち、各に個性を尊重する約」が平成二十六年一月に批准され、同年二月から効力が生じています。また、平成二十四年七月には、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の中で、「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加でけるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。



夕陽会創立百周年に寄せて  
資料・写真で読み解く

## 「母校・同窓会百年歴史秘話」その二

須藤由司  
(昭和52年卒)

▼つづき—「秘話—その一」掲載(昨年末)後の反響は、(予想どおり)ほとんど(三件)ありませんでした。ところが、

一月五日(火)北海道新聞(夕刊)「みなみ風」(地域情報版)「函館・道南」一面に連載「どうなん今昔写真帳Ⅱ」の一回目として「道教大函館校」が取り上げられ、「夕陽記念館」の写真等が掲載されました。何というタイミングか。

さて、いよいよ前号の宿題である「夕陽・夕陽会の呼称はいつから、そして誰

が命名したのか」の確信の話題に移りました。

### 【夕陽・夕陽会の呼称】

大正七年三月、六十八人が第一回生として卒業。同年九月、同窓会を設立。会則(\*1)を定め、役員を決定した。初代代表幹事は古谷全氏、会長は戦前は

母校の校長が務めていた。設立時の会の名称は「函館師範学校同窓会」であつた。

さて、母校や同窓会で「夕陽」の文言がいつ頃から使われていたのか。もっとも「夕陽」—「ゆうひ」が一般的な読みか、「せきよう」と読めるのは我が同窓だけであろうか。因みに留萌管内に「夕陽館?」(せきよう—かん)という宿泊所が

友会誌「白一线」についても触れておきたいが、宿題にしておくことにする。

▼つづいて「夕陽会のルーツが見えてきたところで、一息。一度話題を「母校前史」に降ります。次号では、母校百周年を記念するかのように発見された貴重な史料(本学にとつては「重文級」か)を紐解いていきます。お楽しみにお待ちください。



〈同窓会報・第一号〉

〈北海道教育大学函館校・夕陽会の歩み②〉



〈同窓会員名簿(昭和27年)〉

昭和二十七年七月現在  
同窓会員名簿  
夕陽会

会員初の会長として高坂久喜氏が就任するなどの時期でもあった。しかし、昭和十八年七月発行の会員名簿には「夕陽会」の名称はない。時を経て昭和二十七年七月発行の同窓会員名簿(母校創立四十周年記念事業)には「夕陽会」と記され、「第一条 本会を夕陽会と称する」と「夕陽会々則」を掲載している。(※2)

**【同窓会報・夕陽会報】**  
現在、夕陽記念館には大正十二年発行の「同窓会報準備号」があり、第一号以降もA5版の立派な冊子である。また、今日、我々が手にしている「会報夕陽」は昭和三十年発行「夕陽会報第六十号」以降、現在に至つており、母校・同窓会や時の話題が掲載されている。なお、校

- ※参考図書
  - \*1 「八十年誌」二〇〇八年・平成二〇〇五年号(欠号有り)一九二三・大正一二和二七夕陽会
  - \*2 「同窓会員名簿」一九五二・昭和二七夕陽会
- ・「同窓会報準備号・第一号」第二十五号(欠号有り)一九二三・大正一二和二七夕陽会
- ・「夕陽会報」第六〇号(一九五五・昭和三〇)～現在に至る夕陽記念館所蔵
- ・「同窓会員名簿」一九三〇・昭和五五現在に至る欠号有り夕陽記念館



## 後志夕陽会だより

後志夕陽会長 渡邊清

(昭和55年卒 余市町立沢町小学校長)

後志夕陽会の会長を仰せつかり、早一年が過ぎようとしています。私が勤務する余市町はNHKドラマ「マッサン」の舞台となつた町で、放送が終わつた今でも、ニッカ工場等に多くの観光客が訪れています。

後志夕陽会には後志十九町村の地域に百二十六名の現職会員、その他期限付職員や行政職員、民間等を含めると百五十名を越える会員がおります。南は島牧村、北は積丹町と地域的に広範囲に位置しているので、地域を四ブロック（南ブロック・山麓ブロック・岩宇ブロック・北ブロック）に分けて活動を行つています。後志夕陽会の活動としては全体で行う「総会」、研修部主催の年に三回の「学習会」、年代別の会「臥牛会」が主催する研修会、事務局が主催する「勇退者感謝の会」組織部が進める年に三回の後志夕陽会便り「輝け夕陽」の発行、さらに役員会や代表者会議、そして、各ブロックが実施する「ブロック研修会」等、さまざまな活動に精力的に取り組んでいます。

今年度の「勇退者感謝の会」がつい先日、一月二十三日、岩内町の食事処「日本海」で盛大に行われました。今年度の勇退者は四名、長谷川誠校長先生と三室孝俊校長先生の二名が出席してくださいました。本部夕陽会の橋田恭一会長も遠

く函館から駆けつけてくださいました。

現職会員ばかりでなく、十五名もの先輩会員も出席してくださいました。私が若い頃に同じ学校でお世話になつた大先輩、武内満智夫先輩の乾杯で宴が始まりました。歳を重ねても、こうして後輩達のために出席してくださる先輩方に感謝の気持ちで一杯になりました。締めの乾杯は舟崎克則先輩、いつまでも若き変わらぬ先輩です。感謝、感謝の先輩方です。あ

ちこちのテーブルで、なつかしい学生時代の話に花が咲いています。恒例となるいる寮歌齊唱、音頭をとる吉田会員、お疲れ様。そして、勇退者に感謝のエール、これも毎年恒例です。毎年、素敵にエールをきめてくれる秋田会員、お疲れ様です。

さて、母校函館校が平成二十六年に開校百周年を迎える平成三十年には夕陽会が百周年を迎えます。実は平成三十一年に後志夕陽会も百周年を迎えることになります。後志夕陽会も本部夕陽会と共に歩んできている証です。とはいっても、課題もあります。その一番は若い会員の参加率の低下です。それぞれのブロックでは若い会員達との交流を目的に取り組みが進められていますが、今ひとつ成果として現れていない現状があります。「創造し行動する夕陽会」の言葉を肝に銘じ、今後も取り組んでいく所存です。

支部だより

## 岩手支部だより

岩手支部長 田面木茂樹

(昭和48年卒 奥州市教育委員会教育長)



本年、岩手県では「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンのもと、

第七十一回国民体育大会「希望郷いわて国体」と第十六回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が開催されます。今回は、本大会と冬季大会の全競技を開催する「全國国体」となり、一月の冬季大会から幕が上りました。

さて、東日本大震災発生から五年が過ぎようとしています。巨大地震とそれに伴う大津波により、本県沿岸地域では多くの尊い命と財産が奪われました。多くの学校も大津波に襲われましたが、校長を始めとする教職員的確な判断と指示により、かけがえのない子どもたちの命が守られました。この教職員の中には、多数の夕陽会員がいたことはもちろんのことです。

平成二十三年五月下旬、東北新幹線が復旧再開し、夕陽会本部より青柳副会長が来県いたしました。夕陽会関係者の温情ある義援金をありがたく頂戴いたしました。六月から十月にかけて大船渡支会、釜石支会、宮古支会、久慈支会の会員一人一人にお見舞いを申し上げました。また、沿岸部の各市町村長会を訪問し、夕陽会からの義援金をお渡ししました。

また、平成二十六年には本支部三十周年記念集会を開催しております。現在会員は四百九十三名。平成卒業の世代や教職以外の会員の参加について、課題はあります、毎年、県内の支会の持ち回りで、岩手支部集会を開催しております。また、平成二十六年には本支部三十周年記念集会を開催しております。現在会員は四百九十三名。平成卒業の世代や教職以外の会員の参加について、課題はあります、毎年、県内の支会の持ち回りで、岩手支部集会を開催しております。

本年度は、本部より永井貴之幹事長様にご出席をいただき北上市で実施しました。岩見沢分校と釧路分校の出身者の方々にもご参加いただき、若い会員による現在の職務について講話をする時間を持つことができました。今後も、本支部の発展に鋭意努力する所存であります。

**前納会費納入会員名簿追加分**

(平成二十八年二月二十日現在)

寺田洋子 苦小牧 昭53 奥崎彰裕 伊達昭53

**夕陽会員訃報**

吉井博賢氏 昭26  
札幌市西区西町北20の1の17の102

大井洋一氏 昭30  
札幌市清田区美しが丘2の5の12の24

清野真一氏 昭23  
函館市人見町10の3

渡部芳光氏 昭23  
松戸市松戸2071の3

府金重一氏 昭37  
横浜市金沢区釜利谷西5の9の3

水島孝士氏 昭22  
練馬区東大泉4の29の7

佐々木精一氏 昭41  
室蘭市幌萌町93の155

浅井久志氏 昭39  
函館市美原3の44の6

坂田法行氏 昭34  
七飯町本町3の10の6

盛合邦男氏 昭30  
七飯町本町1の8の3

白井榮一氏 昭31  
伊達市舟岡町151の5

堀文孝氏 昭19  
函館市中島町35の29

佐々木精一氏 昭41  
函館市美原3の44の6

高坂藤吉氏 昭45  
函館市市場町24の15

沢田稔氏 昭45  
函館市北美原14の14

岩村吉男氏 昭31  
森町蛇谷町324

及川悌三郎氏 昭16  
函館市小杉山8の9

四ツ柳高保氏 昭28  
函館市五稜郭町3の8

齋藤金司氏 昭33  
函館市赤川1の5の21

寺田洋子 苦小牧 昭53 奥崎彰裕 伊達昭53  
札幌市西区西町北20の1の17の102  
大井洋一氏 昭30  
札幌市清田区美しが丘2の5の12の24  
清野真一氏 昭23  
函館市人見町10の3  
渡部芳光氏 昭23  
松戸市松戸2071の3  
府金重一氏 昭37  
横浜市金沢区釜利谷西5の9の3  
水島孝士氏 昭22  
練馬区東大泉4の29の7  
佐々木精一氏 昭41  
室蘭市幌萌町93の155  
浅井久志氏 昭39  
函館市美原3の44の6  
坂田法行氏 昭34  
七飯町本町3の10の6  
盛合邦男氏 昭30  
七飯町本町1の8の3  
白井榮一氏 昭31  
伊達市舟岡町151の5  
堀文孝氏 昭19  
函館市中島町35の29  
佐々木精一氏 昭41  
函館市美原3の44の6  
高坂藤吉氏 昭45  
函館市市場町24の15  
沢田稔氏 昭45  
函館市北美原14の14  
岩村吉男氏 昭31  
森町蛇谷町324  
及川悌三郎氏 昭16  
函館市小杉山8の9  
四ツ柳高保氏 昭28  
函館市五稜郭町3の8  
齋藤金司氏 昭33  
函館市赤川1の5の21

(平成二十八年三月四日現在)

**前納会費制度  
ご利用のお勧め**

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。「退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民番種の白扇)の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(三年に一度の発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載、その他慶弔規定の適用

前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になつております。

①大正年代の卒業生

②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者

③同じく昭和五十一年以降の退職者

④平成元年以降の退職者

五千円  
一万円  
二万円  
三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

**お詫びと訂正**

◆会報第二一八号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重なお写真等をお寄せいただきました。この場が開業します。今号の巻頭写真是開業を間近に控えた新函館北斗駅前の風景です。◆いよいよ三月二十六日に北海道新幹線が開業します。今号の巻頭写真是開業を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号も、乳井邦衛様、川島前会長様より百周年の記念企画に開拓する貴重なお写真をご提供いただきました。また須藤元幹事長様からは前号に引き続き母校の歴史秘話の原稿をいただきました。この場を借りてあらためて感謝申し上げます。

◆新幹線開業とともに訪れる「道南新時代」私たち夕陽会員も百周年という一つの節目に向かって、ともに集い、ともに考え、新たな時代をつくっていく一步を確実に踏み出していきたいものです。(情宣部長 古川邦彦 記 昭56卒)

**編集後記**

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。  
041-0806 函館市美原3丁目48番6号  
北海道教育大学附属函館小学校内  
夕陽会本部事務局  
電話番号 (0138) 46-2235  
夕陽会専用 (0138) 34-5520  
FAX番号 (0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)